

民間公益活動を支援し持続可能な中部圏の未来を創る



一般財団法人 **中部圏地域創造ファンド**

Chubu region Creative development Foundation

あいちモリコロ基金の理念・成果を継承



地域や社会の課題を解決するために！

持続可能な良い社会をつくるために！

寄付(志)を集めて民間公益活動を支援する

令和3年6月

設立趣意書

「2005年愛・地球博」の理念を継承するために、平成19年に設立された公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金(愛称;あいちモリコロ基金)は、平成30年をもって10年間の活動を終了する。この間、あいちモリコロ基金が当地域のNPOをはじめとする民間公益活動の成長・発展に与えた影響は非常に大きい。このため、愛・地球博及びあいちモリコロ基金の理念と成果、経験を継承し、変容する地域や社会の課題の解決に向けて活動する民間公益活動に対して、資金的支援や人材育成支援などを行うことを通じて、将来にわたって安心して暮らせる持続可能な地域社会を創造し、もって中部圏における公益の増進に寄与するために本法人を設立する。以下略。

定款より

第1条 名称

この法人は、一般財団法人中部圏地域創造ファンドと称し、
英文では、Chubu Region Creative Development Foundation と表示する。

第2条 事務所

この法人は、主たる事務所を名古屋市内に置く。

第3条 目的

この法人は、地域や社会の課題解決に向けて活動するNPO等をはじめとする民間公益活動団体及びその実施する民間公益活動に対して、資金的支援や人材育成支援等を行うことを通じて、将来にわたって安心して暮らせる持続可能な地域社会を創造し、もって中部圏における公益の増進に寄与することを目的とする。

第4条 事業

この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う

- NPO等をはじめとする民間公益活動への資金的支援事業
- NPO等をはじめとする民間公益活動が発展するための人材や団体の研修事業
- NPO等をはじめとする民間公益活動が発展するための調査事業
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

休眠預金 民間で活用

来春から、初年度30億円

金融機関の口座で十年間出し入れのない「休眠預金」が来春から、公益活動を行う民間団体の資金に活用されるのを前に、助成金の公募が始まっている。貧困や被災者支援、引きこもりなど行政だけでは対応が難しい社会問題に取り組むNPOや市民団体などが対象で、初年度は総額約三十億円。ただ、財源が個人の私有財産だけに、成果の評価や使途の透明性確保など課題も多い。

(諏訪 誠)



休眠預金は預けた人が亡れたり、死亡した引継ぎし長期放置されているお金。内閣府によると、毎年七百億円発生している。金融機関の収益に計上されていたが、休眠預金等活用法が昨年一月に施行。政府などが出資する預金保険機構(東京)に移管され、民間の公益活動の支援に使えるようになった。優良三年の資金

その一つ、公益財団法人

「日本民間公益活動連携機構」(同)が担当。対象となる団体の活動や地域はさまざま。実際の選定作業は全国の二十二の「資金分配団体」が担い、来春三月の分配を目指している。

援助ができる。

助成金を決める「指定活用団体」は、経団連が主導して設立した一般財団法人

「日本民間公益活動連携機構」(同)が担当。対象となる団体の活動や地域はさまざま。実際の選定作業は全国の二十二の「資金分配団体」が担い、来春三月の分配を目指している。

貧困、外国人… 公益活動の支援先募る

「日本対がん協会」(同)はがん患者の支援活動を助成対象に。地域を限定せず全国から募っている。

また、一般財団法人「中部圏地域創造ファンド」(名古屋中)は愛知、岐阜、三重、長野、静岡の五県の団体が対象で来春一月三日まで募集。活動内容は、①虐待や引きこもりなど若年者が抱える課題を在留外国人の課題は過疎地域のコミュニティ維持や環境保全の三分野。四、六団体がチームをつくっても

機構移管後も引き出し可能

休眠預金等活用法で対象となるのは、出入金などが二〇〇九年一月以降にあり、以後十年以上取引のない預貯金など。今年一月から預金保険機構に移されている。ただ、没収されるわけではなく、預けていた各金融機関に請求すれば、移管後も引き出しが可能だ。

金融機関は銀行や信用金庫、労働金庫、商工中金、

らひ、それぞれ三年間で最大三千万円を助成する。

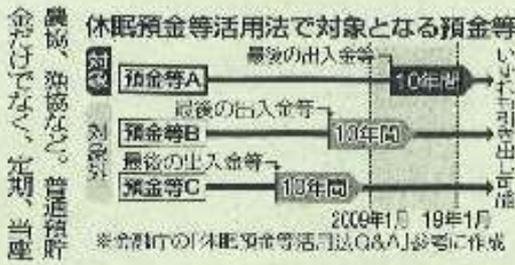
同ファンドは、二〇〇五年の愛・地球博(愛知万博)の収益金でつくられた「あいちモリコロ基金」の関係者らが設立。理事の大西光夫さん(同)は「NPOなどによる公益活動は社会での浸透を増しているが、貧困家庭の支援など対価を求めにくい活動も多く、資金不足に悩む団体も少なくない」と指摘する。十二月下旬に名古屋市で開いた説明会には、約七十人が詰め

掛けた。

助成を受けるには、公益費のほか、事業の費用の二割以上は自前で確保する必要がある。また、社会にもたらした具体的な成果を公表することも求められる。

商工会に参加した在留外国人を支援するNPOの男性は「助成を受けるのに足る態勢が整えられるのか、力が試されている」と話す。

各資金分配団体の公募内容は、日本民間公益活動連携機構のホームページ同名で検索を参照。



預貯金なども対象となる。

最後の取引があつてから九年以上たつた、残高が一万円以上ある場合は、金融機関から郵送やメールで連絡が来る。休眠預金になっているかは、各金融機関に問い合わせれば分かる。

金融庁などによると、引き出すには金融機関に来店して窓口での手続きが必要。通帳やキャッシュカードをなくしていても、運転免許証などの本人確認書類があれば可能だといふ。

役員（顧問・政策委員）

顧問	
奥野信宏	（公財）名古屋まちづくり公社名古屋都市センター長
モンテ・カセム	大学院大学至善館学長／立命館アジア太平洋大学第2代学長
政策委員	
井ノ上美津恵	NPO法人浜松NPOネットワークセンター代表理事
武長脩行	NPO法人ボランタリーネイバーズ副理事長
野村典博	NPO法人ぎふNPOセンター理事長
松井真理子	NPO法人みえNPOネットワークセンター代表理事
山田千代子	NPO法人長野県NPOセンター代表理事
栗田暢之	認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事
浅野 聡	三重大学大学院工学研究科教授
天野鎮雄	一般財団法人愛知難病救済基金理事長
加藤博和	名古屋大学大学院環境学研究科教授
木全純治	あいち国際女性映画祭ディレクター
佐藤久美	名古屋国際工科専門職大学工科学部教授／元モリコロ基金運営委員
鈴木賢一	名古屋市立大学芸術工学部教授／元モリコロ基金運営委員
中田 實	名古屋大学名誉教授
昇 秀樹	名城大学都市情報学部教授
橋本俊也	NPO会計税務専門家ネットワーク理事／非営利法人研究会理事
秀島栄三	名古屋工業大学大学院教授
藤田佳久	愛知大学名誉教授
吉村輝彦	日本福祉大学国際福祉開発学部教授

民間公益活動支援の仕組み

個人・団体(企業等)

寄付

活動報告

“いいね！基金”
(共感基金)

貧困対応支援
就労支援
農山漁村活性化支援
自然災害・パンデミック対応等
支援
南海トラフ地震対応支援
多文化共生支援
愛・地球博の理念継承支援
ソーシャルビジネス支援
NPO等組織基盤強化支援

“わたしの基金”
(冠基金)

寄付者は、名称、助成対象、助成期間などを自由に指定。
・水谷潤平教育基金
・NPO研修基金
・ハルカ基金 等

本財団
応援基金

その他の支援活動

休眠預金活用事業(草の根活動支援・新型コロナウイルス対応緊急支援)
東海ろうきんNPO育成助成事業

一般財団法人中部圏地域創造ファンド

活動エリアの中心は中部圏(長野、岐阜、静岡、愛知、三重)

助成・融資等

活動報告

NPO等民間公益活動団体

寄付(基金)の募集と運営

- 常時受け付けています。寄付の金額に制限はありません。幾らからでも結構です。
- 寄付金として頂いたうちの一部は寄付活動や助成活動のために使用させていただきます。
- 支援団体の募集と選考、活動成果の評価と公開、本財団から寄付者への事業報告等については、申請団体や関係者、専門家や学識者と協議をして、適正な管理運営を行います。
- 支援団体の選考は、着目する課題の重要性、取り組みの妥当性・発展性及び期待される成果、支援の必要性などを勘案して選考します。
- 資金支援だけでなく、専門家や学識者、経験者による助言・協力や人材研修など、団体への非資金的支援も行います。

各種基金

■“わたしの基金”(冠基金)

寄付をされる方の志に基づいて設置する基金で、寄付者は名称、助成対象、助成期間を自由に指定でき、寄付者の数に応じた基金の種類を設置します。

■“いいね！基金”(共感基金)

本財団が三つの視点から用意している基金で、各基金の趣旨に共感していただいた方からの寄付を募集し、一定額が集まった段階で助成活動を実施します。

【視点1: 日本社会が抱える課題に対応】

- ①貧困対応の支援
- ②就労の支援
- ③農山漁村の活性化支援
- ④自然災害・パンデミック対応等の支援

【視点2: 中部圏における課題に対応】

- ①南海トラフ地震対応の支援
- ②多文化共生の支援
- ③愛・地球博の理念継承活動の支援

【視点3: 民間公益活動団体の組織基盤の強化】

- ①ソーシャルビジネスの支援
- ②民間公益活動団体の組織基盤強化の支援

■ 本財団応援基金

本財団の活動を持続発展させていくため、必要な管理費用や調査研究等に使用させていただくために設ける基金です。

役員(理事・監事・評議員)

理事	
稲垣隆司	前岐阜薬科大学学長／元愛知県副知事 ★理事長
山田雅雄	中部ウオータークラブ理事長／名古屋市立大学特任教授／元名古屋市副市長 ★副理事長
雨森孝悦	日本福祉大学福祉経営学部教授／元モリコロ基金運営委員
鵜飼宏成	名古屋市立大学大学院経済学研究科教授／NPO法人起業支援ネット理事
大西光夫	NPO法人ボランタリーネイバーズ顧問
大野明彦	元愛知県県民生活部長
後藤澄江	日本福祉大学社会福祉学部教授／元モリコロ基金運営委員会副委員長
小林宏之	元中部圏社会経済研究所代表理事／元モリコロ基金運営委員
服部 敦	中部大学工学部教授
羽根田英樹	元名古屋市総務局理事
監事	
藤田 哲	ぶなの森法律事務所所長／元モリコロ基金運営委員会委員長／弁護士
古川一也	日本公認会計士協会東海会非営利法人委員会委員長／公認会計士
吉田歌子	桜税理士法人代表社員／税理士
評議員	
青木孝弘	日本地域政策学会東北支部事務局長／会津大学短期大学部産業情報学科准教授
岩原明彦	愛知県経営者協会企画部長／NPO法人中部プロボノセンター共同代表
内輪博之	愛知中小企業家同友会専務理事
片桐正博	元愛知県副知事
加藤義人	岐阜大学客員教授
新開輝夫	名古屋高速道路公社理事長／元名古屋市副市長
鈴木盈宏	NPO法人愛・地球博ボランティアセンター理事長／元トヨタボランティアセンター長
戸田敏行	愛知大学地域政策学部教授／愛知大学三遠南信地域連携研究センター長
戸成司朗	一般社団法人中部SDGs推進センター代表理事／NPO法人中部プロボノセンター共同代表
福和伸夫	名古屋大学大学院環境学研究科教授／名古屋大学減災連携研究センター長
森川高行	名古屋大学未来社会創造機構教授

一般財団法人中部圏地域創造ファンド

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-16 愛知県林業会館2F

☎: 052(228)0350 / FAX: 052(228)0360

EMAIL: crcdf@crcdf.or.jp / URL: <http://www.crcdf.or.jp>